

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572505931
法人名	医療法人 薫風会
事業所名	グループホーム元瀧荘
所在地	秋田県にかほ市象潟町小滝字麻針塚19 (電話) 0184-44-2935
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (10月30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82歳	最低	76歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	象潟病院 後藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥海山のふもとの豊かな自然の中に位置し、家庭的な落ち着いた建物は、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた構造となっている。ホーム内では、広い食堂兼居間の一角にある畳のスペースが、利用者と職員が自然に共に過ごせる空間として活用されている。また、利用者全員がそれぞれの経験や特技などを活かしてかかわる食事作りや、希望に合わせた外出支援、夜間入浴の実施など、利用者一人ひとりのペースを尊重した支援が行われている。また、併設医療機関等の専門職の協力を得て、サービスの充実が図られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での要改善項目はなし。鍵をかけなくもよい工夫の検討や、外出機会を多く持ち、外部との交流の場を増やす取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	評価結果をよりよい支援に活かしていくため、自己評価を職員間で話し合い、取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議の開催回数が少ないため、ホームのサービス内容等の説明や報告が主となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	家族が来訪の際は、利用者のケアに関する要望等を聞き、支援に活かしている。苦情受付担当者の周知が図られ、苦情受付箱が設置されているが、今のところ、苦情は出ていない。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	毎年季節の伝統行事に参加しているが、近隣の集落と約1キロメートル離れた山間部に位置しているため、日常生活において地域とのかかわりは持ちにくく、今後の取り組みの工夫が期待される。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の中に掲げられている運営方針が、サービス提供の理念となっている。	○	住み慣れた地域でのその人らしく安心した生活を支えるサービスの理念として、さらに職員が共有を図り、利用者や家族にわかりやすいものとなるよう、独自の理念をつくりあげていかれることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針の中にある“利用者が「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができる” “「自分の家族を入所させたい」を職員のモットーとして”などの内容を皆で共有し、ケアの中に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年季節の伝統行事に参加しているが、近隣の集落と約1キロメートル離れている山間部に位置するため、日常生活における地域とのかかわりは持ちにくい。	○	できるだけ地域との交流が図れるよう、ホームの持ち味を活かした取り組みが期待される。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には、全職員で取り組んでおり、評価結果をよりよい支援に活かすよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催回数は少ないが、利用者家族、地域関係者、行政担当者などを交えた運営推進会議を実施し、サービス内容等の説明や報告が行われている。	○	今後、開催回数が増えていく中で、より話し合いが深められ、サービス向上に活かされていくことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議以外にも、できるだけ交流を図り、連携を深めるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全体の広報紙も発行されているが、それぞれの家族との個別の連絡を大切にしており、写真の送付と共に生活状況や預かり金の状況などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の仕組みや苦情受付箱などを作っているが、遠慮等もあり、実際に苦情の表出には結びついていない。	○	今後、家族が意見を出しやすい雰囲気づくり等に努め、苦情や要望等を積極的に吸い上げ、よりよいサービス提供に活かしていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動はあるが、利用者へ影響を少なくするため、グループホームの職員異動は、1人のみとする等の配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望に応じて外部の研修に参加できるよう配慮されており、法人内の研修も、定期的に行われている。	○	それぞれの職員の経験等、段階に応じた研修機会の確保への工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会等を通じた交流が図られ、サービスの質を向上させていく取り組みに活かされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	体験利用の実施の他、利用開始後も安心して徐々にホームの生活へと馴染んでいくことができるように、趣味が同じで話しやすい方を紹介するなど、個々に合わせた様々な配慮に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食堂兼居間の一角に畳のスペースがあり、職員が常に利用者の近くにおいて喜怒哀楽を共にし、支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“出かけたところ”や“食べたいもの”を申し出ていただく旨を掲示するなど、利用者それぞれの生活への思いや意向の把握に努め、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にホームに来ていただいて話し合う機会を持ち、本人や家族の要望や意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送りや、毎月の職員会議及び随時の話し合いにおいて、介護計画の見直しを行っている。期間は、3ヶ月を基本としているが、利用者の状況に応じて個別に設定されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望に応じ、個別の外出支援を行うなど、柔軟な対応に努め支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用者が、それぞれの希望にそったかかりつけ医やかかりつけ歯科医を受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期への方針について、本人や家族、かかりつけ医などと話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員それぞれが、一人ひとりの誇りやプライバシーを十分に尊重した利用者本位の対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日の急な外出や希望する時間の入浴等、利用者のペースを大切に、希望にそって生活できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を考え、それぞれの経験や特技を活かして役割分担し、全員で食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	それぞれの利用者の希望に合わせて、入浴日や時間を決めており、夜間入浴も行っている。外出して温泉に行き、ゆったりと入浴を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや野菜作りを中心として、日々の生活の中でそれぞれの生活歴や力を活かして、意欲的に暮らしていけるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散策、温泉など、希望に応じた個別の外出機会を持てるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全ての職員が鍵をかけることの弊害を十分に理解してケアに努めている。		周囲が山に囲まれているという立地条件などから、日中も玄関に鍵をかけることを余儀なくされているが、鍵をかけなくてよい工夫を検討している。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域への働きかけは、運営推進会議を通じて行われている。年2回、夜勤者1名による夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時の安全の確保に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、バランスよく食事を取れるよう、配慮されている。また、法人内の栄養士に相談できる体制が整えられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、家庭の玄関を思わせる構造であり、その他の共用空間も、利用者の尊厳を重視した落ち着いた造りで、季節の花が飾られ居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には洗面台及び冷暖房が完備されており、利用者一人ひとりが、それぞれの思いにそった家具や品物を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。